

令和5年度 高校生防災アクション 実施報告書

学校名	各務原高等学校
テーマ	LHR 活動および全校企画での取り組みを通じて、災害から自らの命を守るために必要な意識や適切な行動がとれる能力を身に付ける。
1 目標	<ul style="list-style-type: none"> 震度6以上の地震発生時の危険を想定した防災訓練を「緊急地震速報受信機」も使用して実施することで、初期対応や防災・減災の方法を学ぶ。 各種訓練の実施後にフィードバックを行うとともに、減災力テストを行って生徒が抱える課題の洗い出しと改善点を提示する。
2 自校で取り組んだこと〈誰と（誰に）、何をしたかを具体的に〉	<p>4月 第1回命を守る訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> 全クラスに地震発生時の基本行動を図示し、HR委員に防災リーダーとしての心構えを教示した。 各種災害・非常時における生徒および職員の安全確保のための緊急学校連絡メール（すぐメール）の着信確認を行った。 全校生徒を対象に地震発生時のシェイクアウト訓練を行った。 <p>5月 第2回命を守る訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> 放送で日本シェイクアウト提唱会議作成の防災訓練用音源を流し、その後、全校生徒を対象にシェイクアウト訓練を行った。 地震の二次災害として火災発生を想定し、避難訓練および各務原市消防署への通報訓練を行った。また、避難訓練の際は、放送機器不通を想定し、拡声器による指示・伝達を試みた。 第1回減災力テストを行った。 <p>6月 帰宅確認・安否確認訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> 全校生徒を対象に緊急学校連絡メール（すぐメール）を使用して、帰宅確認・安否確認訓練を行った。 <p>9月 全校統一 LHR</p> <ul style="list-style-type: none"> 岐阜県危機管理部防災課編集・発行の『WEB版 災害・避難カード』中にある「中学生・高校生用 授業用動画」（『【前編】大雨災害から命を守るチェックポイント』）を全校生徒に視聴させた後、同HP内にある「ワークシート1 中学・高校用」をもちいて、災害（とくに大雨による災害）と避難についての理解を深めさせた。 清流の国ぎふ防災・減災センター特任准教授・村岡治道先生をお招きして、全校生徒を対象に防災講話を実施した。 <p>11月 第3回命を守る訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> 突然起こる火災発生を想定して通常の授業中に火災報知器を作動させ、避難訓練および各務原市消防署への通報訓練を行った。 消防訓練の一環として、消火器の使い方を説明した。また、避難行動の注意事項について啓発した。 第2回減災力テストを行った。

(別紙2)

3 自校で取り組んでいく際にあった困難とその解決に向けて努力や工夫したこと
命を守る訓練においては、予期せぬ災害と被災時の行動に迫真性をもたせるために、緊急地震速報装置・火災報知器・緊急学校連絡メール（すぐメール）などをもちいて、実際の災害応急対策を行った。防災講話においては、学校内や生徒が現在住んでいる場所に関する被災対策のみならず、生涯にわたって心がける被災対策を説明していただいた。生徒によるフィードバックシートの記述を読むと、様々な防災訓練を実施したことによって、少しずつ防災意識を向上させていることがうかがえる。

4 目標に対する成果

・減災力テスト（対象 2 年： 39 名）

1回目 平均点 45 点 ⇒ 2回目 平均点 47 点

5 目標に対する今後の課題

防災への意識が一過性のものになっているのではないか、ということが気に掛かる。今年度は実行できなかったが、HR 委員だけでなく生徒会の協力を得て、防災への意識と被災時の適切な行動が全校生徒に根付くように努めたい。

6 自校における来年度の取組（本年度の学びをどのように引き継ぐか、または深めるか。）

- ・ 命を守る訓練については、さらに工夫を重ねて、生徒の初期対応能力を高めていきたい。
- ・ 生徒会・HR 委員・厚生委員の協力を得ながら、生徒たちが自主的に防災意識を高められるように働きかけていきたい。